Hack For Japan + Code for Japan

あなたのスキルは社会に役立つ

2011年3月11日の東日本大震災発生の直後に発足したHack For Japanと「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーから、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアができる社会貢献」をテーマにした記事をお届けします。

第86回

地方での生存戦略も考えてみませんか。

●イトナブ 細矢 研人（ほそや けんと）

はじめに

みなさんは、自分の生き方について考えたことはあるでしょうか。けっして重苦しい話ではなく、生き方の選択肢を増やすということの大切さやおもしろさが伝わればな、と思っています。

今回は、本連載で毎年取り上げている「石巻ハッカソン」を主催しているイトナブの細矢が、地方が抱える問題や地方での活動で得られるもの、それがどのように生き方に関わってくるのかについてお伝えします。

イトナブって地方で何してるの？

イトナブは東日本大震災を機に、ITの力で街に復興と進化をもたらそうという想いのもと立ち上がった団体です。イトナブのある宮城県石巻市では、震災が起こるずっと前から地方特有の多くの問題を抱えていました。

その問題の1つに「将来の選択肢が少な過ぎて若者が地元を離れざるを得ない」状況があります。若者が流出し続ける街に未来はありません。それを食い止めるべくイトナブは「震災10年後の2021年までに石巻から1,000人のIT技術者を育成する」を理念に掲げました。

イトナブは学生の味方となるためにさまざまな施策を講じています。まずイトナブは会社オフィスを学生に対してオープンにしています。セキュリティが必要なエリアは確保するものの、できる限り実際に働いている大人と学生が交差するポイントが多くなるようにしています。さらに学生のキャリアの相談に乗ったり、大人が活躍する姿やカッコイイ背中を見せて、学生に憧れてもらうことをスタッフは意識しています。

また、エンジニアの居場所づくりにも力を入れています。地方のエンジニアが挫折する大きな理由の1つが勉強会や交流会が絶望的に少ないこと。イトナブでは頻繁に最先端の技術を学ぶイベントや交流会を開催しており、その中でも一番大きなイベントが「石巻ハッカソン（**写真1**）」です。「石巻ハッカソンってなんかちょっと普通のハッカソンじゃないよね」と言われることが多いのですが、学生と大人が接しやすいようにしたり、大人のカッコイイ背中を学生が間近で体験したりすることを趣旨に盛り込んでいるからこそ、独自の雰囲気が醸し出されているのかもしれません。

地方の問題は挙げだしたらキリがありませんが、

▼写真1　石巻ハッカソンでの集合写真

ときには熱く、ときには泥臭く、正面から立ち向かっています。

地方各地の活動と問題

最近イトナブは縁あって山口県周南市と奈良県生駒市に支部を立ち上げました。イトナブ周南に関しては筆者が直接立ち上げたものですが、イトナブ石巻のように地域のエンジニアと若者のための場を作っていければなと思っています。

実はすでに昨年（2018年）度、周南市にて「石巻ハッカソンin周南」（**写真2**）を開催しました。周南市なのに石巻ハッカソン？　と思われるかもしれませんが、石巻市で毎年開催している「石巻ハッカソン」のノリや雰囲気をそのまま持っていきたい！という想いがあったため、このようなイベント名になりました。今度はイトナブ周南らしさを込めて「周南ハッカソン」という形で開催します。

山口県周南市で活動してみてあらためてわかったことは、地方の問題は地域ごとに形がさまざまで、しかもたくさんの要素が複雑に絡み合っているためシンプルな解決策でどうにかなるようなものではないということ。だからこそ、地方でエンジニアの居場所を1から創り上げるということはたいへんな苦労があります。ほかの地域で活動している方達も試行錯誤の連続だろうなと思います。

自分の居場所はいくつありますか？

前置きが長くなってしまいましたが、これがどのように生き方の話につながっていくのでしょうか。まず人が生活に充実感を得られなかったり居場所がないと感じたりしたときは、人との関わりが薄くなっている、あるいは周囲の人との関わりがうまくいっていないパターンがほとんどです。

たとえば地方に移住したエンジニアの場合であれば、周囲にエンジニアのコミュニティがなければすべて自分1人で学び続けなければなりませんし、仕事の苦労を知ってくれる人もいなければ気軽に相談できる場所もありません。つらさを感じて都市部に

▼写真2　石巻ハッカソンin周南

戻ってしまうなんて話もよくあります。

では都市部のエンジニアはどうでしょうか。世界一の技術力を身につけたい、バリバリ仕事をしてキャリアアップして生きていきたい。そう考えている人がいる一方で、都会に疲れてしまう人、山や海のある地方で普通に家庭を持って普通に生きていけないだろうかと思う人、時間的な自由をとにかく追い求めたいと思う人、そんな人たちも増えてきました。この変化の多い時代に1つだけの生き方を続けることは困難です。誰にでも、挫折したり、気が変わったりすることがそんなに低くない確率であるはずです。

そんなときにどうでしょうか、自分が積極的に関わっているコミュニティや居場所はいくつあるでしょうか。自分が充実した気持ちで存在できる場所はいくつありますか？　たとえば極論ですが、自分の所属するコミュニティや居場所がすべて東京都内にあったとして、東京にいたくない理由ができたり東京にいられる期間が少なくなったりした際、自分の居場所はどうなってしまうでしょうか。こんな極論じみたことはほぼ起こらないかもしれませんが、県外などの多様な場所や人と関わって、バリエーション豊かな選択肢を持っておくことは、より良い生き方に確実につながると思っています。

人間社会の中で生きる以上、人との関わりなしに望んだ生き方をするのは困難です。人と関わることは必須要素と言っても過言ではありません。生き方を変えるには人とのかかわりを作る必要があり、人との関わり、つまるところ所属するコミュニティを

増やすことは生き方のバリエーションを増やすことにつながるのです。

地方に居場所を作ってみませんか

地方ではあらゆるリソースを集めるのに苦労します。そんな中であっても、街のために、なんとか活動を持続させている方達はたくさんいます。そんな彼らを支援するのであれば、たとえちょっとしたことであったとしても、きっと歓迎されるでしょう。たとえばイトナブでも定期的に開発系の勉強会を開催しますが、観光ついででもいいので、そのようなところに刺激を与える目的で参加してみてはいかがでしょうか。

ほかの街の活動に関しても、少々勇気がいるかもしれませんがやはり直接飛び込んでみるか、もしくは地方と関わっている知り合いがいるならばその方からの紹介もお勧めです。街づくり系のイベントやワークショップなどがあるタイミングであればより参加しやすいかと思います。技術系のみならず、興味があるものにはとりあえず一度参加してみることをお勧めします。思わぬところでおもしろいつながりが生まれたり、必要とされたりするかもしれません。

参考までに、筆者がかかわっているコミュニティをまとめてみました。

●イトナブ石巻

エンジニアの居場所作りや、石巻市から世界に挑戦できる学生を育成するべく、さまざまな活動を行っています。訪れた方から「部室みたい」「大学の研究室みたい」(**写真3**)と言われるような場所で、学生と大人が入り混じって突発的に勉強会が開催されたりします。

●イトナブ生駒

奈良先端科学技術大学の学生が主体のコミュニティです。技術系のイベントへの出展など、精力的な活動を行っています。

●イトナブ周南

最近立ち上げたばかりですが、石巻のようにエンジニアの居場所となれるような、あるいは積極的な学生と大人の接点となれるような場所にすべく、さまざまな試みを考えています。たとえば毎月開催で、学生と大人のカジュアルな交流会「イトナベ」や、エンジニアの交流や勉強会を目的としたイベントを開催していきます。イトナブ石巻や東京の何らかのプログラミング勉強会とオンラインで連携して、より充実した内容のイベントも予定しています。

●東北Tech道場

東北の復興、発展のため、現役で活躍している開発者の方々が支援している活動です。初心者でも大歓迎で、環境構築からアプリケーションの開発、公開まで講師や先輩がサポートしてくれる心強い勉強会です(**写真4**)。

▼写真3　学生と大人が入り混じって活動する、イトナブ石巻の一室

▼写真4　東北Tech道場石巻の会場

●石巻ハッカソン／周南ハッカソン

地域と学生のためにイトナブが開催する、それぞれ年に一度のイベントです。「開発者の文化祭」をキーワードに、大人の参加者と学生の参加者がお互いに「触発」し合うことを狙いとしています。

地域の熱い想いを持つ学生とたまたま知り合い、師弟関係のような形で技術をオンライン通話で教えるようになったというおもしろい事例も存在します。

居場所の究極は「ふるさと」

自身の体験の話ですが、筆者は山形県のいわゆる田舎出身で、大学進学を機に東京へ。東京のことを悪く言うつもりはありませんが、人とのつながりが非常に薄いなと感じておりました。そんな中、東日本大震災が発生。友人からの誘いもあり宮城県石巻市へ行きました。そこで筆者が目の当たりにしたのは現地で活動する人たちの強いエネルギーでした。彼らは街を震災前より進化させるという強い想いのもと活動を行っていました。こちらが何かできないだろうかと訪れたというのに、何度も家に泊めさせてもらったり、美味しい食材を食べさせてくれたりなど、逆に被災した現地の方達からさまざまなものをもらってばかりで、地域の人たちの懐の深さに魅了されました。

気がつけば月に1回以上は夜行バスで石巻へ向かうようになっており、何かを手伝ったり、せめてもらった分を何らかの形で返せないだろうかと活動するようになりました。夜行バスで東京に帰るとき、毎回「次はいつ来るんだい」と冗談交じりに友達から言われていたものですが、いつしか「次はいつ帰ってくるの？」と地域の人たちから言われるようになり、筆者の思っていた「居場所」は「ふるさと」に変化していました。

現在筆者が住んでいるのは山口県周南市ですが、石巻が第2の故郷であることに変わりはありません。たとえば実家のある山形に帰る際などは、できる限り石巻にも立ち寄ろうと思っているほどです。

ほかにも山口県周南市に移住してすぐのころ、とあるエンジニアの方からのお誘いで広島県西条市に行く機会がありました。技術系のイベントに向けて日本各地からエンジニアたちが集まりましたが、ちょうど開催されていた酒まつりも集まる目的の1つだったようで、宿で寝るまでほぼ全員ずっと酔ってベロベロだったようです。集まったエンジニアの方たち全員が心の底から楽しんでいるようで、まさに彼らの居場所がそこにはありました。そのエンジニアの方達と宿の地元の人との関わりもだいぶ長いようで、訪れたら必ず「おお、帰ってきたか、おかえり」と言って歓迎してもらえるような、そんな貴重なつながりが確かに存在していました。

地方は怖くない

このように、地方には移住や観光とはまた別の魅力がたくさんあります。もしこれから観光する場所に地元の人たちの知り合いがたくさんいるのであれば、この上なく心強いことでしょう。もし地方へ移住を考えているのであれば、まったく見知らぬ地域にいきなり引っ越すよりも、自分の「居場所」を先に作ってからのほうが圧倒的に安定感が増します。地域の人たちに「知ってもらう」だけで、地方の敷居がぐっと下がり、自分の生きる選択肢が増えるのです。たとえば筆者は東京から宮城県石巻に移住した過去がありますが、当時よく話題になった「移住の失敗談」のようなことは1つも起こりませんでした。

最後に

地方に居場所を作るきっかけは何だっていいと思います。地方のハッカソンに参加してみたり、「おもしろそうだから首を突っ込んでみただけだよ」なんてことでもいいと思います。そこをきっかけにほかの地域の活動の情報を得るなんてのもアリです。もし少しでも興味があるようでしたら、ぜひ地方各地のコミュニティや活動に手を差し伸べてみてください。さらにぜひ、みなさん自身の第2、第3のふるさとを作ってみてください。SD